

Group Exhibition

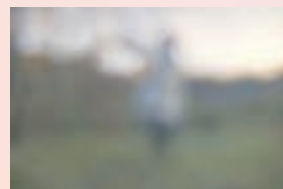
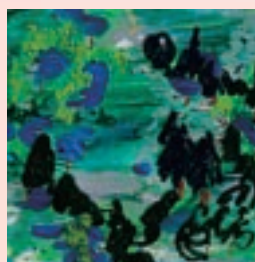
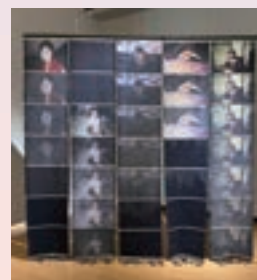
Be here now

2026.4.26 sun — 5.23sat

Curated by biscuit gallery

オープニングレセプション 4月26日(日) 17:00 - 20:00 *どなたでもご参加いただけます

飯田 美穂、井上 七海、岩田 智代、上野 英里、内田 麗奈、太田 桃香、
旧野 ハナ、城 蛍、土井 沙織、中崎 由梨、にいみ ひろき、三枝 由季、
ミノワ タカハル、森正 響一、山口 由葉、吉積 惟代



Be here now

本展は、東京と軽井沢を拠点とする biscuit gallery が、地域にゆかりのあるアーティストの皆さまと共に作り上げた展覧会です。

biscuit gallery は 2021 年に設立したギャラリーで、これまで数多くの新進気鋭アーティストたちと東京を中心に展覧会を企画運営して参りました。ここ、名古屋での展覧会は初めてとなります。貴重な機会をくださり、とても光栄に思っております。

東京のギャラリーが名古屋で企画する意義。それは、この場所に縁のあるアーティストの皆さまを私たちがキャスティングし、新たな視点で紹介することと考えました。ローカルのアートシーンにおいて、鑑賞やコレクションの文化を醸成していくことは容易なことではありません。しかし、地域にゆかりのある作家たちの熱量と、私たちが培ってきた発信力が重なり合うことで、新しい「意識の立ち上がり」を生み出せると確信しています。

本展が提示する表現の数々が、鑑賞者の皆様の感性と触れ合い、名古屋から立ち上がるアートの「現在地」を示すものとなれば幸いです。

biscuit gallery

飯田 美穂

文化の継承、絵画とは何かという問いを軸に制作。近作では名画をモチーフとした制作を背景に、光や視点の変化、時間差を含む層が手ごかりに、絵画をイメージではなく一つの物質的現象として捉え直す試みもおこなう。

井上 七海

「線を引く」という単一行為の反復によって「何かを描く」というイメージの呪縛から絵画を解放させることを試みる。機械的にも見える身体的な反復は精度を増すほど機械との違いを絵画のイメージ内に痕跡として残す。

岩田 智代

織りの技法を用いて、時間と記憶を表現する。経糸（たていと）は時間軸、緯糸（よこいと）は記憶だ。図像を綿布にプリントし裂いて緯糸とし、平織で織る。織り・撮影・再印刷・再織りを繰り返すことで、記憶が曖昧になっていく過程を手仕事によって確かめている。

上野 英里

日本で育った私が、西洋の舞台や抗議のイメージから着想を得た風景を描き、集団主義と個人主義の緊張関係を探る。人物は描くが人格は描かず、私たちの個性は実在するのかわかっている。

内田 麗奈

"ベロアを使ったカーテン作品は、私が真っ暗な部屋に居た時に「どうしたら光が作れるだろう？」と、もがいて生まれました。壁にカーテンが掛かっているという事は、そこには光が差しこむ「窓」があるということ…。カーテンがあることで「窓」をイメージして欲しいです。その窓は、2 万年前のクロマニヨン人たちの夢と、今の私達の世界に繋がります。"

太田 桃香

日常的に目にする山をテーマとして平面作品を制作している。生活の中に入り込んでくる山に興味を持つきっかけとなった京都での生活をはじめ、様々な場所で生活する中で、自然に浮かび上がる風景を描いている。"

旧野 ハナ

日々の生活における場面や時間の経過を観測し、絵画として構成し残している。人の営みに現れる変化を捉え、その感受をもとに、消費される時間への静かな抵抗として視覚へと定着させている。

城 蜩

"負を抱えること、違和感を持ち続けること。私の考えでは、それは物体に無理をさせ、歪みを生じさせます。だからこそ、結果として絵画は大きく変形し、半立体の奇形へと変態します。しかし、私は、そこに優しさ、静けさ、穏やかさといった装いを与えることで、負の光景に安らぎをもたらします。そうすることによって、否定されがちな負という存在を、私たちは肯定することができるのかもしれない。"

土井 沙織

"どこにいても、誰かといっても、何をして、1 人で死んでも、私たちみんな大きなものの手のひらの上。"

中崎 由梨

日常には、自らの意思が及ばない瞬間が多く存在する。私たちはそれに抵抗したり、受け流したりしながら生活をしている。そうした他者の力や外的な力に左右される感覚を意識的に作品へ取り込み制作している。

にのみ ひろき

アートディレクターとして広告等のクリエイティブに携わりながら、個人の作家活動をスタート。アメリカのミニマルアート、コンセプチュアルアートへの関心を自身の原体験としてグラフィックデザイナーやアートディレクターの商業的人格と同期させる中で作家と鑑賞者の関係性において、極めて市場主義的な視点から美術史の変成を試みている。"

三枝 由季

自身の曖昧な記憶や感覚から抽出された情景を描いている。どこか懐かしく、しかしどこにもない風景だ。その曖昧さが鑑賞者の想像と重なり、新しい形やイメージが生まれていけば嬉しい。

ミノワ タカハル

壺という持続する形態に向き合い、焼成の反復によって生じるひびや歪みを時間の痕跡として捉える。制作を通して、形態の中に積み重なる時間を可視化する。

森正 響一


"幼少期から親しんでいたプラモデル、フィギュアのイメージを陶による手びねりで製作しています。モチーフであるプラモデル、フィギュアの機械的な硬さ、土と釉薬の生物的な柔らかさの間で「不完全さ」の中にある「美しさ」を探る試みをしています。"

山口 由葉

"一手一手こうなったからこう描こうと反応し、考えながら描いている。初めの一手が何かによって絵は全く変わってしまう。私は考えながら描いた絵具の重なり、それが示すプロセスをもっとも大切にしている。描く順序がわかるような描き方をする中で見る側は私の絵描きとしての思考を追体験する。追体験の中で 1 枚の絵画としての成り立ちに、私が求めた要素や、過程に生じたさまざまな選択を、どのように受け取るのかを絵の前の他者に問う。"

吉積 惟代

私が感じている物理的・心理的距離感を含めた自分と他者との関係性を可視化したいという思いが制作動機のひとつです。他者は自己投影によって形作られる存在であると考え、その他者像を画面に投射することで私の絵画制作が始まります。

 Blackbird Gallery



愛知県名古屋市中区栄3-7-30

T | 052 990 4609

M | contact@blackbird-gallery.net

Instagram | [@blackbird.jp](https://www.instagram.com/blackbird.jp)

開廊日: 水・木・金 11:00-18:00

土・日 11:00-20:00

休廊日: 月・火

*開廊: 5/4,5 休廊: 5/6,7,8,11-15